

一 般 質 問 通 告 書

佐野市議会議長 様

		平成30年 2月19日	受理者印
		午前 午後	11時57分 受 理 
議 会 名	平成30年 第1回 佐野市議会定例会		
発 言 者	議席番号 3番	氏 名 菅 原 達	
答弁を求める者 (選択してください)		市長 ・ 副市長 ・ 教育長 ・ 担当部局長	
質問方法 (いずれかを選択してください)		一問一答 ・ 一括質問一括答弁	
大項目(質問項目) 中項目(質問細目)		小項目 (具体的な質問内容)	
1 デマンド交通の導入について (1) これまでの検討内容について		① <u>本市に適したデマンド交通のあり方について</u> 本市に適したデマンド交通の形態について、どのような検討を行い、どのような見解に至ったのか、伺いたい。 ② <u>高齢者を対象とした利用意識調査について</u> フルデマンド方式の検討を行いながら意識調査の内容と実施につき検討したい、との事でしたが、どのような調査を行ったのか、伺いたい。 ③ <u>先進地の成功事例について</u> 先進地の成功事例として紹介した、長野県安曇野市のデマンドタクシー (あづみん) について、どのような検討を行い、どのように評価しているのか、伺いたい。	
(2) 佐野市地域公共交通網形成計画 (案) に盛り込まれた内容について		① <u>公共交通の人口カバー状況について</u> 公共交通によりカバーされている範囲を、鉄道駅では1.5km圏内、バス停では300m圏内と定め、それ以外を、公共交通によりカバーされていないエリアとして識別しているが、公共交通空白地域との関連性含め、このエリアを識別する意図はどこにあるのか、伺いたい。	

(3) 本市に適したデマンド交通
の確立について

② 市内の交通特性の把握について

日常行動の目的地や移動手段などを把握するために、328名からヒアリング調査を行っているが、デマンド交通の導入を検討する際に重視すべき高齢者の特性は把握できているのか、伺いたい。

③ 公共交通空白地域における移動特性の把握について

公共交通空白地域である市南部地区の住民を対象とした移動特性調査を行っているが、調査の目的がどこにあり、市内全域の移動特性との整合性をどのように認識しているのか、伺いたい。

① デマンド交通導入の目的の明確化について

デマンド交通導入の目的は、バス停までの移動距離のある地域も含めた公共交通空白地域の解消にあり、しかも、利用対象者を高齢者や障がい者などで“自身で移動手段をもたない方”に照準を合わせることで、“買い物難民”や“医療難民”の救済と、心身の健康増進を目指すものであると考えるがいかがか、伺いたい。

② ドア・ツー・ドアのデマンド方式の適性について

デマンド交通の様々な形態の中でも、先の、公共交通空白地域の解消を目的として導入を図る上で、バス停までの移動距離を考え、また、利用対象者の多くが高齢者や障がい者などで“自身で移動手段をもたない方”であることに配慮すると、ドア・ツー・ドアのデマンド方式が最も適した形態だと考えるがいかがか、伺いたい。

③ 定時性の確保の重要性について

デマンド交通は、乗り合いが基本のため、目的地までの所要時間が読めず、時間的余裕のある場合の利用に適している。しかし、そのような利用であっても、利用者にとっての利便性や信頼性の向上、さらに、リピーターを生むといった観点から、最低限の定時性の確保は必要な要素であると考えます。

そこで伺います。デマンド交通における定時性の確保の重要性をどのようにお考えか、伺いたい。

④ 収益性だけではなく二次的効果も含めた採算性に
基づく評価について

フルデマンド方式の導入を提唱した当初から、収益性の確保が懸念されていた。しかし、目指そうとするデマンド交通が、高齢者や障がい者などに目を向けた福祉的な目的を有する事、外出が促される事による健康増進、認知症予防効果など、医療・介護の費用削減が期待できる事、運転免許証返納促進による、高齢者ドライバーの交通事故抑制効果、さらに市街地・商店街やタクシー業界の活性化といった経済波及効果などが期待される事などを踏まえると、事業そのものの収益性だけではなく、二次的な波及効果も含めて、採算性があるかどうかで評価すべきであると考えます。

そこで伺います。デマンド交通の導入に際しては、事業の収益性だけではなく、二次的効果も含めた採算性に基づき評価すべきであると考えますが、いかがか、伺いたい。

⑤ 市内全域を対象としたデマンド交通の制度設計
の実施について

ここまで確認したように、市内全域にわたり、ドア・ツー・ドアのデマンド交通による公共交通空白地域の解消を目指し、しかも、本市の地理的条件の下で、利用者が満足できる定時性と事業に継続性を持たせられる採算性を確保させるには、市内全域をエリアに分け、エリア毎の移動需要を定量的に把握した上で、既存の路線バスの活用や廃止も含めて、エリア間の連結のし方や、必要な車両台数や適正な運賃設定など、基本的、且つ詳細な制度設計を行う必要があると考えます。

そこで伺います。市内全域を対象としたデマンド交通の制度設計を早急に実施すべきであると考えますが、いかがか、伺いたい。

2 歯科検診の充実について

(1) 歯周疾患検診の受診率向上について

① 歯周疾患検診の受診の状況と課題について

本市で行われる歯周疾患検診の過去３年間の受診状況と課題について、伺いたい。

② 歯周疾患検診の啓発の取り組みについて

歯周病は35歳以上の約8割が罹患する国民病と言われ、近年、歯周病と糖尿病の関連性や誤えん性肺炎の原因となる事が知られ、その予防には、定期的な検診が極めて大切だと言われている。

そこで、多くの市民に受診してもらうためには、
先ずその事実を知ってもらう事が大切であり、啓
発活動を積極的に推進すべきであると考えてるが、
いかがか、伺いたい。

③ 歯周疾患検診の拡大について

現在本市では、満年齢で 40・50・60・70 歳の方を対象とし検診のご案内をしているが、これを、30 歳以上からに拡大し、毎年実施できるよう対象を拡大すべきではないか、伺いたい。

(2) 国保歯科検診の見直しについて

① 国保歯科検診の受診の現状と課題について

本市で行われる国保歯科検診の過去３年間の受診状況と課題について、伺いたい。

② 菌周疾患検診との事業の一本化について

市民にとって利用しやすく、健康増進に活かせるよう充実させるためには、国保歯科検診と歯周疾患検診の事業を一本化すべきであり、それにより、先の歯周疾患検診の拡大も可能になると考えるが、いかがか、伺いたい。

(3) 訪問歯科診療のあり方について

① 訪問歯科診療の現状と課題について

本市における、訪問歯科診療の現状と課題について伺いたい。

② 今後の訪問歯科診療のあり方について

地域包括ケアシステム構築を視野に入れ、今後の訪問歯科診療のあり方について、伺いたい。